

三河地方初記録の淡水生二枚貝フネドブガイ

西 浩孝*・坂本博一*・松岡敬二*

A new record of the freshwater mussel, *Anodonta (Anemina) arcaeformis* (Unionidae) from the Mikawa region, central Japan

Hiroataka Nishi*, Hirokazu Sakamoto* and Keiji Matsuoka*

はじめに

フネドブガイ *Anodonta (Anemina) arcaeformis* は、中国、ロシア沿海州、朝鮮半島、日本に生息する淡水生二枚貝であり、日本では北海道、本州、四国に分布する（近藤，2008）。東海地方ではこれまで記録がなかったが、最近になって愛知県と岐阜県において生息が報告された（近藤ほか，2013）。愛知県においては2011年に犬山市の入鹿池から採集されているのみで（近藤ほか，2013）、三河地方からの記録はなかった。

豊橋市自然史博物館では、平成6年の郷土の自然展示室改装に関連して市内のため池のプランクトン、海綿および貝類の調査を行った（田中，1991；松岡，1991）。豊橋市自然史博物館にはその際に採集された豊橋市産のフネドブガイの標本が所蔵されているので、愛知県内での最も古い記録として、また、三河地方からの初記録としてここに報告する。あわせて、その後の調査で採集された標本についても報告する。

近藤ほか（2013）も述べているように、日本各地に生息するフネドブガイが近年になって愛知県に生息域を広げたとは考えにくい。淡水生二枚貝類について十分な調査が行われておらずこれまでに発見される機会がなかったり、形態的に類似しているタガイ *Anodonta japonica* と混同されたりしていたものと考えられる。

採集場所

豊橋市大岩町字火打坂にある三ツ池は、東より上池、中池、下池の3つの池が東西に並んでいる。三ツ池全体の満水面積は6,100 m²、台帳貯水量は29,000 m³である（豊橋市産業部農地整備課提供のデータによる）。

下池へは中池から水が流入している。東西の土手はコンクリート護岸であるが、残りはチャートの岩盤と同種の角礫に覆われている。中央部の底質は泥が堆積している。1990年1月20日、著者の一人松岡は工事に伴って水抜きされた下池においてフネドブガイ（当時はタガイと同定）を採集した（松岡，1991）。同時にオオタニシ、ヒメタニシの貝類、淡水海綿、淡水コケムシ、ウナギ、コイ、フナ、オオクチバスを確認している。

中池の土手は西側の1辺がコンクリート護岸になっ



第1図. 池干しが行われている三ツ池中池。
2009年2月22日撮影。

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

原稿受付 2014年1月8日. Manuscript received Jan. 8, 2014.

原稿受理 2014年1月9日. Manuscript accepted Jan. 9, 2014.

キーワード: 淡水生二枚貝, フネドブガイ, ため池, 豊橋市, 愛知県.

Key words : freshwater mussel, *Anodonta (Anemina) arcaeformis*, pond, Toyohashi City, Aichi Prefecture.



第2図. フネドブガイ (TMNH-MO-24872).
スケールバーは1 cm.

ているが、残りは自然護岸で抽水植物が繁茂している。底質は泥である。豊橋市内の農業用ため池においては、2007年度より、農閑期に水抜きを行い、護岸等の点検整備を兼ねて外来魚の駆除作業が行われている。著者らは、水抜きにあわせて淡水貝類を含む水生生物の生息調査を行っている（坂本ほか、2013、2014）。中池では2009年2月18日に外来魚の駆除作業が行われ、約1ヶ月間池干しが行われた（第1図）。著者の一人

坂本は外来魚駆除にあわせて三ツ池中池の水生生物調査を行い、フネドブガイ2個体を採集した。さらに、著者の一人西は追加調査として2月22日および3月7日に水が抜かれて干上がった三ツ池中池を目視で探索を行い、フネドブガイの生貝を合計7個体採集した。イシガイ科淡水二枚貝としては、ヌマガイ *Anodonta lauta* も同所的に生息していた。

資 料

イシガイ科 Family Unionidae

ドブガイ属 Genus *Anodonta*

フネドブガイ *Anodonta (Anemina) arcaeformis* (Heude, 1877) (第2図)

標本：13個体 (TMNH-MO-24881～24885, 24887～24894), 三ツ池下池, 1990年1月20日, 松岡敬二採集；2個体 (TMNH-MO-24872, 24873), 2009年2月18日, 三ツ池中池, 坂本博一採集；2個体 (TMNH-MO-24874, 24875), 三ツ池中池, 2009年2月22日, 西 浩孝採集；5個体 (TMNH-MO-24876～24880), 三ツ池中池, 2009年3月7日, 西 浩孝採集。

第1表. 殻形態の計測データ.

産地と資料登録番号 (TMNH-MO-)	殻長 (mm)	殻高 (mm)	殻幅 (mm)	殻前部の長さ / 殻長	備考
三ツ池中池	24872	99.7	60.3	24.7	0.38
	24873	98.2	61.2	24.1	0.39
	24874	110.4	67.0	24.9	0.38
	24875	75.6	45.3	20.1	0.38
	24876	66.7	37.3	16.7	0.42
	24877	67.5	36.1	16.3	0.44
	24878	76.9	42.5	19.3	0.44
	24879	65.9	36.4	17.2	0.42
	24880	103.4	62.8	26.1	0.45
	24881	112.3	67.2	27.5	0.37
三ツ池下池	24882	108.0	64.2	27.4	0.37
	24883	103.1	57.4	23.5	0.36
	24884	110.4	63.8	27.3	0.36
	24885	96.0	57.4	24.1	0.37
	24887	110.1	62.8	26.7	0.35
	24888	107.4	62.4	26.1	0.37
	24889	97.1	55.3	23.2	0.36
	24890	99.5	57.5	23.2	0.34
	24891	100.6	59.2	23.9	0.36
	24892	110.8	64.4	26.3	0.39
	24893	97.6	58.2	23.2	0.40
	24894	107.2	60.1	22.4	0.39

* 殻にひび割れが発生しており、計測値は不正確.

殻形態の計測値は第1表のとおりである。フネドブガイは殻頂が中央に寄るのが特徴であり、殻頂の位置を示す殻前部の長さと殻長の比率は0.34～0.45（平均0.39, n=22）と、既報の値とおおむね一致している（鈴木, 1939；近藤ほか, 2013）。

謝 辞

駆除作業の情報を提供いただいた豊橋市産業部農地整備課の小林和生氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 近藤美麻・秋山吉寛・ノエリカント ラマモンジソア・伊藤健吾・千家正照, 2013. 東海地方初記録の淡水二枚貝フネドブガイ *Anemina arcaeformis* (イシガイ科：ドブガイ族). ちりばたん, **43** : 58-64.
- 近藤高貴, 2008. 日本産イシガイ目貝類図譜. 日本貝類学会特別出版物, (3) : 1-69.
- 松岡敬二, 1991. 豊橋市大岩町三ツ池の淡水海綿. 豊橋市自然史博物館研報, (1) : 51-53.
- 坂本博一・西 浩孝・松岡敬二, 2013. 豊橋市のため池で確認された淡水魚類, 淡水貝類および淡水海綿 (2010年～2011年). 豊橋市自然史博物館研報, (23) : 39-44.
- 坂本博一・西 浩孝・松岡敬二, 2014. 豊橋市のため池で確認された淡水魚類, 淡水貝類および淡水海綿 (2013年). 豊橋市自然史博物館研報, (24) : 25-30.
- 鈴木好一, 1939. 満洲國貝類研究資料1 : *Anodonta arcaeformis* (Heude) フネドブガヒ. ヴェキナス, **9** : 1-26.
- 田中正明, 1991. 豊橋市大岩町三ツ池のプランクトン相. 豊橋市自然史博物館研報, (1) : 51-53.